

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

最終報告提出日:2012年9月27日

1. 基本情報

氏名:安 鍾培

所属:人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室

2. 研究テーマ

植民地朝鮮における専門職エリート階層の形成
—京城紡織株式会社の人事資料調査を中心に—

3. 派遣先での活動

(1)派遣先の基本情報

派遣先:韓国

現地受入研究者:檀国大学校商経大学経済学科 徐文錫研究室

(2)派遣期間:

2011 年1 月10 日～2011 年3 月31 日(総日数81 日)

4. 主な研究成果

(1)当初の計画概要

今回の派遣を通じて朝鮮人の専門職に注目して京城紡織株式会社の人事資料調査を実施する予定である。京城紡織株式会社の専門職の人事資料の調査により、高等教育と近代的な会社の普及という社会的変化の中で、専門職という社会階層の形成に注目した。

今回の派遣ではその資料をデータベース化し、分析するのが当面の課題である。人事資料の収集・分析対象時期は専門職エリートの階層が形成されはじめる1920年代から1930年代とする。1910年代に半ばに植民地朝鮮で高等教育機関が設立され、会社設立を抑制していた会社法も1920年に廃止された。京城紡織株式会社の設立は1919年であり、高等教育を受けた者の受け皿として現存する数少ない会社であった。今回の資料調査を通じて専門職エリートとなった人々の社会的資源の蓄積過程を実証的に明らかにすることが出来ると思われる。

(2)実際に達成された成果

京城紡織株式会社の関係者が所蔵している資料から当社の社員及び職員の資料の提供してもらった。当社設立から1944年までに入社した社員及び職員の資料により把握できるのは、姓名、生年月日、入社年月日、退社年月日、出身学校、人事異動等の一部である。入手した人事資料では出身学校を把握することが出来、これを検証するため、一部の学校の卒業生名簿の収集も実施した。一部の社員・職員であるが、当社退社後の韓国の経済界での活動も様々な資料により把握することができた。

(3)今後の研究展望

派遣以前に研究を進めていた役員に関する調査によって韓国の資本家の出身母体については一部明らかにしたが、今回の派遣によって職員の出身についても一部把握することが出来た。今後収集

した資料の分析を進めることで植民地朝鮮のホワイトカラーの形成の要素、経路の一部を明らかにすることが出来ると思われる。